

平成 21 年 4 月 14 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18570220

研究課題名 (和文) 縄文人・アイヌの起源に関する二重構造仮説の検証

研究課題名 (英文) Estimate for the origin of the Jomon and Ainu in relation to Dual structure model for the population history of Japanese

研究代表者

埴原 恒彦 (HANIHARA TSUNEHIKO)

佐賀大学・医学部・教授

研究者番号：00180919

研究分野：形質人類学

科研費の分科・細目：人類学・自然人類学

キーワード：形質人類学、頭蓋形態、歯冠形態

縄文人、アイヌ

1. 研究計画の概要

日本人の成立に関する二重構造論仮説によって説明される縄文人、アイヌの起源が、正しいかどうかの検証することが本研究の直接の目的である。具体的には頭蓋、歯冠形態について、分析を進める。

2. 研究の進捗状況

すでに必要なデータの収集はほぼ終了しており、研究の最終年度に入った今日、おもに、データ整理と解析、その結果のまとめを実施している。

頭蓋データについての分析では、アイヌ集団と北東アジア集団との関連を明らかにし、さらに、縄文集団について、その起源に関する解析を実施した。その結果、縄文集団が、北東アジアに由来する可能性が高いことが明らかとなった。この結果は、従来、形態学的に指摘されていた縄文集団の東南アジア起源説を否定するものであり、新しい所見である。

歯冠形態の分析結果からも、上述と同様の結果が得られ、縄文人、アイヌの系統が北東アジア集団に由来する可能性が指摘された。

2. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

上述のように、当初の研究目的に沿った具体的な成果が既に得られており、その結果もすでに複数編の論文にまとめられており、おおむね順調に進展していると評価できよう。

4. 今後の研究の推進方策

本年度は本研究の最終年度であるので、これまでに発表した論文をまとめ、報告書を作成できるよう努力する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Hanihara T, Ishida H (2009) Regional differences in craniofacial diversity and the population history of Jomon Japan. *Am J Phys Anthropol* DOI 10.1002/ajpa.20985.

Hanihara T et al. (2008) Craniometric variation of the Ainu: an assessment of differential gene flow from Northeast Asia into northern Japan, Hokkaido. *Am J Phys Anthropol*, 137: 283-293.

(両編とも査読あり)

[学会発表](計15件)

埴原恒彦：日本人の起源に関する二重構造仮説とその後の展開. 第57回日本法医学会九州地方会, 特別講演, 2007, 福岡.

〔図書〕(計5件)

Hanihara T (2006) Interpretation of craniofacial variation and diversification of East and southeast Asian. In: Oxenham M, Tayles N, eds. Bioarchaeology of Southeast Asia. Cambridge: Cambridge Univ Press, pp. 91-111. (査読あり)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

特になし。